

## 第6章 地域別の将来像(北東部・北西部・中部・南部)

第3、4章では、市川市の現在の自然環境について具体的に述べました。

本章では、第5章で定めた4つの基本戦略を推進するため、市川市を地形の特徴や地域の特性を活かして、4つのエリアとして区分した後、各エリアの自然環境の現状と2050年の目標と取り組みを設定しました。

各エリアの範囲は図6-1(p54参照)のとおりです。

表6-1 各エリアの特徴

名称	特徴	写真	
北東部	梨園が広がる大野・大町や柏井の台地部、大柏川を軸とした地域		大町公園
北西部	水と緑の回廊を含む国分台と曾谷台の一部を含む地域		東京外かく環状道路と小塚山公園
中部	クロマツが分布する市川砂州を中心とした地域		葛飾八幡宮のクロマツ
南部	江戸川放水路周辺と埋立地からなる地域		塩浜



図 6-1 各エリアの範囲

## 1. 各エリアの現状と目標

### 1.1 北東部

#### 1.1.1 現状

大町公園の自然観察園や柏井の青少年の森、大柏川第一調節池緑地などが水辺の拠点、緑の拠点として挙げられます。



#### 1) 大町公園

湧き水ときれいな小川が流れる湿地には、サワガニ、ホトケドジョウ、スナヤツメ、ヘイケボタルなど、現在本市ではここでしか生息していない生きものが多数観察できます。また、ニホンアカガエルの生息も確認できます。

周辺台地部分は梨園が広がり、そこに降った雨が自然観察園の湧水の元になっています。谷の両側の斜面林は湿地の環境と連続した多様な生物の生息・生育環境となっており、今後も湧水、湿地、斜面林の状態を維持することが必要です。

なお、「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」にも選ばれています。

多くの谷津が埋立てや開発によって本来の姿を失ってしまった現在では、大町公園自然観察園は、貴重な谷津であり、レクリエーション機能も有し、市民や地域住民が自然環境と触れ合う緑の拠点として活用していきます。



## 2) 大柏川第一調節池緑地

大柏川の増水による浸水被害の軽減を目的とするために調節池として整備されました。調節池の掘り込みに大小15の池(棚池)とそれらを一望できる外周路を整備しています。緑地内の環境学習の拠点として大柏川ビジターセンターがあり、調節池の機能や自然の紹介、体験学習の実施が可能です。

また、調節池内ではツツイトモ、車軸藻類などの水生植物が確認されており、調節池に隣接している北方ミニ自然園ではニホンアカガエルの生息が確認されています。

治水機能を確保するとともに、水辺の拠点と位置づけ、自然と親しみ、学習する場や多様な生物の生息・生育の場として環境を保全します。



## 3) ナシ園

国道464号線は大町梨街道と呼ばれ、地域ブランド「市川の梨」を生産する梨畑が続いている地域です。台地上に立地する樹園地は雨水浸透によって、湧水の水源涵養として重要であるため、施肥による地下水や土壌への影響を考慮し、優良農地として保全を図ります。



北東部で見られる主な動植物



ハイケボタル



オニヤンマ



キンラン



ホトケドジョウ

## 1.1.2 目標

表 6-2 に北東部エリアの 2050 年の目標（将来の姿）と取り組みについて整理しました。

表 6-2 北東部エリアの 2050 年の目標（将来の姿）と取り組み

No.	2050 年目標の内容	実現に向けての取り組み
1	大町公園は生物多様性の核として保全され、大柏川流域の貴重な生きものや緑と水辺の拠点となっています。また、台地にある農地や周辺の緑地は、大柏川流域の生きものや湧水の供給源となり、大柏川を軸に生態系ネットワークを形成しています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>大町自然観察園を中心とした周辺地域の生物多様性の保全</li> <li>大柏川を軸として谷津～河川～海への生態系ネットワークの形成</li> <li>大柏川の水質改善及び周辺の自然環境の保全</li> <li>大きく広がる優良農地の保全</li> </ul>
2	大町自然観察園や小川再生親子ふれあい農園等では、生きものが豊かで、子どもや大人が自然や農業と触れ合い体験を楽しむ場となります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然環境を利用した安全で身近に生物多様性を学べる場の確保</li> <li>里山の環境の保全と再生</li> <li>公園や緑地の市民との協働による管理体制づくり</li> </ul>
3	柏井青少年の森は、いわゆる「雑木林」として生態系に配慮しながら、行政と市民ボランティアと地元住民の協働で保全し、市民のレクリエーションや小中学生が地域の身近な環境を楽しく学べる場となります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>里山の環境の保全と再生</li> <li>公園や緑地の市民との協働による管理体制づくり</li> <li>自然環境を利用した安全で身近に生物多様性を学べる場の確保</li> </ul>
4	大柏川第一調節池及び大柏川は、水辺の環境の特性を活かし、生きものの重要な生息・生育場所として保全され、環境学習や市民に親しまれる水辺の拠点となります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>大柏川第一調節池緑地および周辺の生物多様性の保全と再生</li> <li>自然環境を利用した安全で身近に生物多様性を学べる場の確保</li> <li>大柏川の水質改善及び周辺の自然環境の保全</li> <li>市民との協働による管理体制づくり</li> </ul>



スナヤツメ・レスキュー／ホトケドジョウ・レスキューの取り組み

《スナヤツメ》



- 生息環境の悪化が理由と思われ  
ますが、ここ数年で激減していま  
す。
- 作業内容としては、幼魚が生息す  
る泥のたまり、成魚が産卵に使う  
斜面裾の礫が多い水路、その両者  
をつなぐ水路、これらの整備や再  
生を考えており、具体的には、草  
刈り、湿地を掘る作業、水路の落  
枝の除去、低木伐採などが挙げら  
れます。

《ホトケドジョウ》



- 毎年、繁殖が確認されていま  
すが、生息に適した環境がずいぶん  
少なくなりました。
- 作業内容は、幼魚が成長するた  
めに必要な湧水の浅い水面を作る  
ことです。ホトケドジョウが確認  
されている水路に連続する形で  
水面を作ります。新しい生息場所  
を作って、そこへの引っ越しも考  
えています。

○長田谷津（動植物園がある大町公園の自然観察園）について、市川市では 50 年前の「谷津田の景観と豊かな自然」の姿に近い状態で維持することを目的として保全を行っています。

《本市お問合せ先》

部署：市川市教育委員会 教育振興部 文化財課 自然博物館  
住所：〒272-0801 千葉県市川市大町 284 動植物園内  
電話：047-339-0477  
※市公式 Web サイトでは、作業日程や作業内容を公開

スナヤツメ



ホトケドジョウ



## 1.2 北西部

### 1.2.1 現状

東京湾に注ぐ江戸川沿いの美しい景観は、緑豊かな斜面林とともに東京から市川にきたことの影響を深めています。



#### 1) 里見公園

面積約8haを有する里見公園は、表門から入ったエリアー帯に噴水広場、バラ園などが整備されています。ここにはシラカシ、スタジイ、タブノキなどの地域本来の植生を知る高木が樹林をつくるほか、モミやサクラ類があり季節を楽しむことができます。また、公園の南斜面下にある羅漢<sup>らかん</sup>の井<sup>い</sup>では一年中清水が湧いています。また、里見公園からほど近い旧坂川周辺ではフジバカマが自生するなど、小規模ながら美しい水辺の景観をつくっています。里見公園は国府台緑地、じゅん菜池緑地、小塚山公園と合わせて緑の拠点として生物多様性の保全・再生を図ります。

#### 2) 国府台緑地

里見公園北側に5ha余り広がる国府台緑地は市内最大級の緑地であり、全域が雑木林で構成されています。かつては薪炭林や用材林として管理利用されてきましたが、20世紀後半からその利用がなくなり、樹林の高さは20mを超えています。周囲には住宅地が拡大していますが、その中であってまとまった面積の樹林地は緑の拠点として保全を図ります。

### 3) じゅん菜池緑地

国府台と国分の台地間に深く入り込んだ沼を整備・復元し、1979年にじゅん菜池緑地として利用を開始しました。市民を中心にじゅん菜を復活する取り組みが行われています。

イノカシラフラスコモが発見されたことや平地性トンボが多く特に珍しいヤンマ類が多いことから「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」に選ばれています。

池の周囲は緑豊かな木々に囲まれ、水と緑の憩いの場として親しまれているほか、ウォーキングにも利用されており、緑の拠点と位置づけます。じゅん菜池緑地では、じゅん菜が育成する水辺環境の復元を図ります。



### 4) 小塚山公園

小塚山公園は国の事業である東京外かく環状道路の道路施設の一部が公園北側の樹林部分に抵触していたことから、市は自然環境の保全策として工事に係る樹林地部分の樹木を仮移植し、工事後に復元しました。

園内にはシラカシ・イヌシデ・クヌギ等の雑木が密生した典型的な北総地方の自然林である市民の森があり、森の中には遊歩道が設けられています。また、隣接したフィールドアスレチックでは、本格的なコースが楽しめます。

小塚山公園周辺は、緑の拠点と位置づけ、自然とのふれあいや憩いの場として、多様な主体との連携、適切な維持管理等による魅力度向上を図ります。



## 5) 国分川調節池緑地

真間川流域の総合治水対策の一環として千葉県が主体となって整備が進められ、2013年度末に掘削が完了しました。

国分川と春木川に囲まれた国分川調節池緑地は水辺の拠点として位置づけ、治水機能を確保するとともに、市民の憩いの場や自然の触れ合える場や多様な生物の生息・生育の場としての環境を保全します。



2025年3月に、国分川調節池緑地の一部（自然ふれあいゾーン、散策・休息ゾーンの一部）が生物多様性の価値を有す、様々な取り組みによって生物多様性の保全が図られている区域として市内で初めて「自然共生サイト」に認定されました。

### 北西部で見られる主な動植物



イノカシラフラスコモ



ホンドタヌキ



フクロウ



カワセミ

## 1.2.2 目標

表 6-3 に北西部エリアの 2050 年の目標（将来の姿）と取り組みについて整理しました。

表 6-3 北西部エリアの 2050 年の目標（将来の姿）と取り組み

No.	2050 年目標の内容	実現に向けての取り組み
1	真間山弘法寺から始まる斜面緑地と里見公園や国府台緑地を生物多様性の核として保全し、周辺緑地や住宅地の豊かな庭、東京外かく環状道路等の緑地帯、都市河川から江戸川へつながる生態系ネットワークが形成されます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・真間山弘法寺から国府台緑地へとつながる斜面緑地の保全</li> <li>・里見公園や国府台緑地を拠点とした断続的に分布する緑地間の生態系ネットワーク形成</li> <li>・真間川、国分川、春木川の水質改善</li> <li>・東京外かく環状道路沿道の生物多様性に配慮した緑地帯の形成</li> <li>・市街地の緑地の保全</li> <li>・周辺住民の生物多様性の理解と周知</li> </ul>
2	国府台緑地や堀之内貝塚公園などの周辺緑地では、地域住民と里山ボランティアと行政の協働で、生物多様性に配慮した保全活動が行われています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国府台緑地や堀之内貝塚公園など周辺緑地の生物多様性に配慮した保全</li> <li>・公園や緑地の市民との協働による管理体制づくり</li> <li>・周辺住民の生物多様性の理解と周知</li> </ul>
3	里見公園や国府台緑地は、市民に親しまれる緑の拠点として、地域の自然や文化を学び・体験することができる環境学習の場としても活用されています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市公園の整備</li> <li>・自然環境を利用した安全で身近に生物多様性を学べる場の確保</li> <li>・地域の伝統ある行事の継承</li> <li>・周辺住民の生物多様性の理解と周知</li> </ul>
4	国分川調節池は、治水機能を確保しつつ、一部分は、生きものの重要な生息・生育場所として保全され、環境学習や市民に親しまれる水辺の環境を形成しています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国分川調節池緑地での生物多様性の保全・再生</li> <li>・自然環境を利用した安全で身近に生物多様性を学べる場の確保</li> <li>・市民に親しまれる水辺環境の保全</li> </ul>



じゅん菜池における保全活動の概要

- 2017 年より、市と地域の市民団体、千葉商科大学をはじめとする教育機関が協働し、池の水環境・生態系を再生する「じゅん菜池プロジェクト」を開始し、現在も継続しています。
- この活動は、過去に池内に自生していたイノカシラフラスコモ（絶滅危惧Ⅰ類〈環境省 RL〉）やジュンサイなどの水草を復活させること、池の自然環境改善過程において、中・高・大学及び地域住民を対象とした環境教育に取り組むことを目的としています。

いきもの協働調査とは？

- 市内で初めて「自然共生サイト」に認定された国分川調節池緑地の一部では、生物多様性の保全が図られるよう様々な取り組みを行っています。
- その中で、「いきもの協働調査」とは、学校、市民、行政などの様々な主体が連携し、生物多様性の保全と持続可能な利用に向けた取り組みとして始めた生物モニタリング調査のことです。
- 以下の体制を構築して進めています。

協働の体制図



第1回いきもの協働調査(昆虫相調査)の様子

○第1回調査では、バッタ・コオロギの仲間8種、トンボの仲間5種など計20種が確認されました。

《本市お問合せ先》

部署：市川市 環境部 自然環境課  
 住所：〒272-8501 千葉県市川市南八幡2丁目20番2号  
 電話：047-712-6307

※市公式Webサイトでは、自然共生サイトやいきもの協働調査について公開しています。

自然共生サイト



いきもの協働調査



## 1.3 中部

### 1.3.1 現状

市内で最も市街化が進んでいる地域ですが、市川砂州のあたりにはクロマツの林がわずかに残り、江戸川土手や社寺林など人々とのかかわりをもった自然があります。



#### 1) 社寺林

中山法華経寺や葛飾八幡宮などを中心に長い歴史を秘めた社寺林が市街地の中に残されています。昔は鎮守の森として巨樹に囲まれた境内全体が信仰の対象となっていました。クスノキやケヤキ、スダジイなどの林が多く残っています。市街地内に残る社寺林は自然に身近に触れ合える場として保全を図ります。



#### 2) クロマツ

帯状に東西に走る市川砂州は 3000 年ほど前に、現在の市域の低地が浅い海だった時代に形成され、多くのクロマツが群生する独特な景観が形成されています。また、クロマツの多い諏訪神社隣接地を都市緑地法に基づき、「平田緑地保全地区」に指定し、そのほか地藏山墓地・春日神社・胡録神社・諏訪神社とクロマツの林帯が続いています。クロマツは市の木として市民の馴染みの深い木



の一つです。市内にある巨木やクロマツを所有・管理する方と協定を締結し、歴史ある樹木を保全し、市民が森林や樹木を身近に感じられる状態を維持していきます。

### 3) 江戸川河川敷緑地

江戸川河川敷については、市川市が国土交通省から数か所に分け 24.5ha の占有許可を得て、野球場などの運動場や公園、ビオトープとして利用しています。葦原や護岸には市川市の天然記念物に指定されているヒヌマイトトンボなどの生きものが生息・生育しています。野鳥や水辺の生きもの等が生息・生育し、市民が水に触れ合える環境づくりに向け、流域全体で河川の水質改善に努め、市民に親しまれる水辺環境として保全していきます。



#### 中部で見られる主な動植物



コゲラ



クロマツ (新田春日神社)



ナゴヤサナエ



キジ

### 1.3.2 目標

表 6-4 に中部エリアの 2050 年の目標（将来の姿）と取り組みについて整理しました。

表 6-4 中部エリアの 2050 年の目標（将来の姿）と取り組み

No.	2050 年目標の内容	実現に向けての取り組み
1	<p>市川市の緑の象徴であるクロマツは、適切な保護・管理により、クロマツ林として保全されています。民有地のクロマツについては、「市川市保存樹木協定制度」により守られています。</p> <p>また、東京外かく環状道路等の緑地帯や公園も生物多様性に配慮された整備がなされ市民と行政が協働して保全管理を行っています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>京成線沿いに広がるクロマツ林の保全</li> <li>都市公園の整備</li> <li>市街地の緑地の保全</li> <li>住宅地に隣接した緑地の保全管理</li> <li>周辺住民の生物多様性の理解と周知</li> <li>東京外かく環状道路沿道や京葉ジャンクションの生物多様性に配慮した緑地の形成及び市民と行政の協働による保全管理</li> </ul>
2	<p>中山法華経寺周辺や葛飾八幡宮周辺は、地域住民の協力のもとに保全され、歴史や文化が感じられる緑の拠点となります。</p> <p>また、大洲防災公園は、防災拠点の役割を担うとともに、市民が親しめる緑の拠点の機能を果たしています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中山法華経寺や葛飾八幡宮等の社寺林の保全</li> <li>巨樹や巨木の保全</li> <li>市街地の緑地の保全</li> <li>住宅地に隣接した緑地の保全管理</li> <li>周辺住民の生物多様性の理解と周知</li> </ul>
3	<p>江戸川河川敷は、緑地として適切に保全され、真間川を利用した江戸川と東京湾を結ぶ生態系ネットワークが形成されています。また、一方では、市民に親しまれる水辺環境となっています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>真間川の水質改善</li> <li>江戸川河川敷を軸とした生態系ネットワーク形成</li> <li>江戸川河川敷に生息・生育する絶滅危惧種の保護</li> <li>市民に親しまれる水辺環境の保全</li> </ul>

## 1.4 南部

### 1.4.1 現状

沖積平野と埋め立て地が広がっている地域です。江戸川放水路によって二分された地域も見られます。

また、「三番瀬」と呼ばれる干潟・浅海域に面し、水質の浄化機能のほか、海生生物や水鳥の生息・生育場所、ノリ養殖業や採貝漁業などの漁場、海浜レクリエーションの場

となるなど様々な価値があります。しかし、かつて漁が行われていたアサリは、様々な環境の変化により、近年ではほとんど見られなくなりました。

こうしたことから、海を取り巻く環境の改善に向けた取り組みが重要となります。

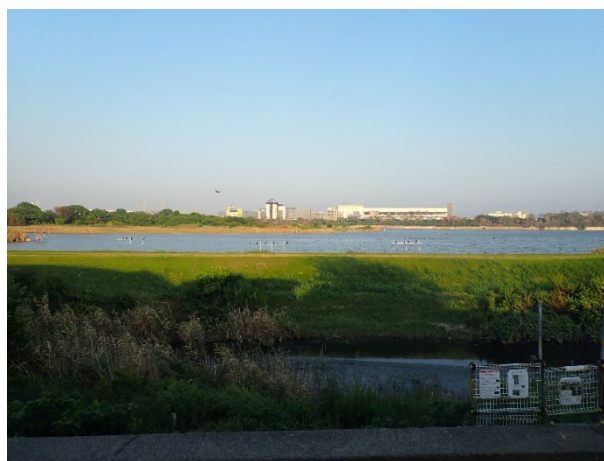


### 1) 行徳近郊緑地、行徳鳥獣保護区

鳥獣保護区や新浜鴨場が存在する行徳近郊緑地は生きものにとって貴重な生息・生育空間であり、緑の拠点と位置づけ、野鳥等の生息・生育空間や市民が自然、生きものに親しむ場として保全と活用を図ります。

内陸性湿地での環境学習機会の確保や市民が気軽に自然を楽しむ場の整備の一環として、令和2年度に行徳野鳥観察舎(あいねすと)を開館し展示やミニ観察会を行っています。

また、この湿地は三番瀬の後背湿地として連続した生態系を有するため、広域的な観点からあらゆる生物を含めて検討していく必要があります。

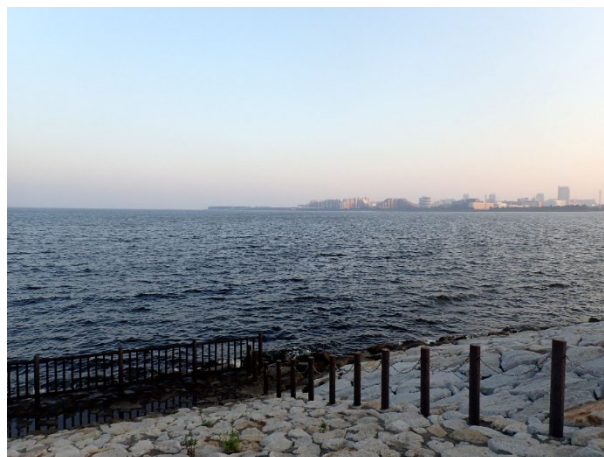


## 2) 塩浜

全国有数の渡り鳥の飛来地であり、魚や貝など、海の生物を育む浅海域である「三番瀬」と「行徳近郊緑地」に接する貴重な自然空間となっています。

市では、かつての原風景を取り戻すべく干潟の再生に取り組んでいます。

このような多様な生物の生息・生育環境に配慮した干潟の再生等はネイチャーポジティブの一環であり、自然とふれあえる場の創出により海辺の拠点としての機能強化を図ります。



## 3) 東浜

船橋市と隣接する東浜は東京湾に面して 400mほどの人工海浜であり、潮干狩りやバードウォッチングを楽しむ人でにぎわっています。春秋にはシギ・チドリ類の渡り鳥、夏にはコアジサシ、冬にはハマシギが見られ、そのほかカモ類やカモメ類、カワウ、ミヤコドリ、そしてミサゴなどの猛禽類も見られます。



## 4) 江戸川放水路

大正時代に開削された人工水路であり、江戸川本川と隔てる行徳可動堰が設けられ、海水の遡上を防ぎ、増水時には江戸川の水を江戸川放水路に流す役割をもちます。干潮時には干潟となりトビハゼなどの東京湾では少なくなってきた希少性の高い種も見られます。

東京湾最奥部の泥干潟から砂干潟へ至る多様な干潟環境となっています。

また、放水路では市民が水に親しむ姿も見受けられており、環境学習の場としても活用されています。



## 5) 寺町の社寺と周辺緑地

行徳は社寺が多い地域として知られ、行徳街道と 権現道ごんげんみちに沿っていくつもの神社や寺院が建ち並びます。

社寺林は生態系ネットワークの一部として生きものたちが行き来する場所となっており、身近な自然とのふれあいの場として保全を図ります。



### 南部で見られる主な動物



トビハゼ



カワウ



ハマシギ



ヘラサギ

## 1.4.2 目標

表 6-5 に南部エリアの 2050 年の目標（将来の姿）と取り組みについて整理しました。

表 6-5 南部エリアの 2050 年の目標（将来の姿）と取り組み

No.	2050 年目標の内容	実現に向けての取り組み
1	<p>江戸川河川敷や行徳近郊緑地特別保全地区、江戸川第二終末処理場、塩浜臨海部、広尾防災公園、江戸川第一終末処理場等を結ぶ、生態系ネットワークが形成されています。</p> <p>また、東京外かく環状道路等の緑地帯や公園も生物多様性に配慮された整備がなされ市民と行政が協働して保全管理を行っています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行徳近郊緑地の保全と再生</li> <li>行徳近郊緑地を中心とした生態系ネットワークの形成</li> <li>江戸川河川敷に生息・生育する絶滅危惧種の保護</li> <li>市街地の緑地の保全</li> <li>周辺住民の生物多様性の理解と周知</li> <li>東京外かく環状道路沿道の生物多様性に配慮した緑地の形成及び市民と行政の協働による保全管理</li> </ul>
2	<p>江戸川放水路や三番瀬は、海浜性生物や野鳥などが多く生息・生育し、市民が利用しやすい、生きものの観察場所となります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アマモの植え付け等による三番瀬の生物多様性の保全と再生</li> <li>干潟、浅海域に生息・生育する生きものの保護・回復</li> <li>市民に親しまれる水辺環境の保全</li> </ul>
3	<p>行徳地域の公園や周辺の社寺林など市街地の緑地空間が保全され生きものたちが行き来する場所となっています。また、外来種の侵入や園芸種の逸出を避ける努力がなされています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市公園の整備</li> <li>市街地の緑地の保全</li> <li>住宅地に隣接した社寺林の保全管理</li> <li>周辺住民の生物多様性の理解と周知</li> <li>外来種の侵入や園芸種等の逸出の防止</li> </ul>
4	<p>塩浜地先の海岸線には海と陸の連続性に富む護岸が整備され、干潟が再生しかつての海原風景が広がっています。生きものが豊かになった干潟と浅海域は、市民が自然に触れ合える場や豊かな漁場として利用されています。また、行徳近郊緑地には、野鳥をはじめ様々な生きものたちが生息・生育し、生きものの生息・生育環境に配慮しながら市民が自然にふれあい学ぶ場所となっています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>塩浜地先の海岸線の市民が親しめる干潟の再生</li> <li>干潟、浅海域に生息・生育する生きものの保護・回復</li> <li>自然環境を利用した安全で身近に生物多様性を学べる場の確保</li> <li>臨海部の事業場の緑化推進</li> <li>行徳近郊緑地の保全と再生</li> <li>市民に親しまれる水辺環境の保全</li> <li>豊かな漁場への改善</li> </ul>



ブルーカーボンとは？

- 沿岸・海洋生態系が光合成により CO<sub>2</sub>を取り込み、その後、海底や深海に蓄積される炭素のことをブルーカーボンと呼びます。
- 2009年に公表された国連環境計画（UNEP）の報告書「Blue Carbon」において紹介され、吸収源対策の新しい選択肢として世界的に注目が集まるようになりました。
- ブルーカーボンの主要な吸収源には、藻場（海草・海藻）や塩性湿地・干潟、マングローブ林があり、これらは「ブルーカーボン生態系」と呼ばれています。



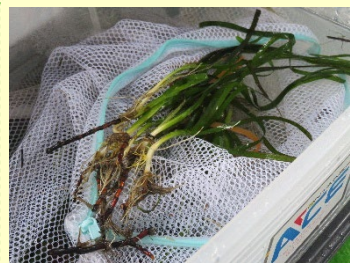
出典）環境省 Web サイト (<https://www.env.go.jp/earth/ondanka/blue-carbon-jp/about.html>)



市川市の取り組み～アマモの植え付け～

- 本市では、「ブルーカーボン」を推進するため、三番瀬の藻場の保全・回復に関する取り組みを実施しています。アマモはブルーカーボンの吸収源のほか、多様な生物の生息・生育場として機能することが期待されています。
- 市川市漁業協同組合と地元で活動する環境団体の協力により、富津で採取したアマモ約 300 株を三番瀬に移植し、モニタリングを行っています。

アマモの植え付け(令和 6 年 11 月)



モニタリングで確認されたコウイカの卵(令和 7 年 6 月)



参考にした Web サイト

- ・環境省 (<https://www.env.go.jp/earth/ondanka/blue-carbon-jp/about.html>)
- ・市川市 (<https://www.city.ichikawa.lg.jp/page/2932.html>)